曹洞宗中国管区 教化センターだより

《発行所》
曹洞宗中国管区教化センター
〒722-0033尾道市東土堂町17-29
TEL.0848-25-2855
FAX.0848-25-4148

《印刷所》
プリントショップ・イトウ
TEL&FAX.0849-26-2304

平成十三年度 布教教化方針

正法の興隆と曹洞禅の宣揚を願い、信仰心の確立を促し、教化施策として、「人権・平和・環境」をその柱とし、「まごころに生きる」仏道修行の展開を図るため、次のごとく、布教方針を定める。

一、仏法僧の三宝に帰依し、一仏両祖を奉祀して、宗門の教えを学び、仏教徒としての正しい信仰心を育む。

二、本尊唱名「南無釈迦牟尼仏」の敷衍をはかる。

三、高祖道元禅師七百五十回大遠忌にあたり、至誠をもって奉修される管区及び海外開教総監部の予修法要に準じ、宗務所、教区並びに寺院毎にこれを奉修し、道元禅師の徳をたたえ、慈恩に酬ゆると共にその行を行とし心を心とする。

四、一人ひとりの人権を尊重するとともに、あらゆる差別の撤廃のため啓発教化に取り組む。

五、戦争の惨禍と自省を忘れることなく、いのちの尊厳を自覚し、世界平和の実現に向けて努力する。

六、自然の恩恵に感謝し、環境との調和につとめ、もののいのちを生かし合う生活を営む。

七、授戒会修行を奨励し、生前受戒をすすめる。

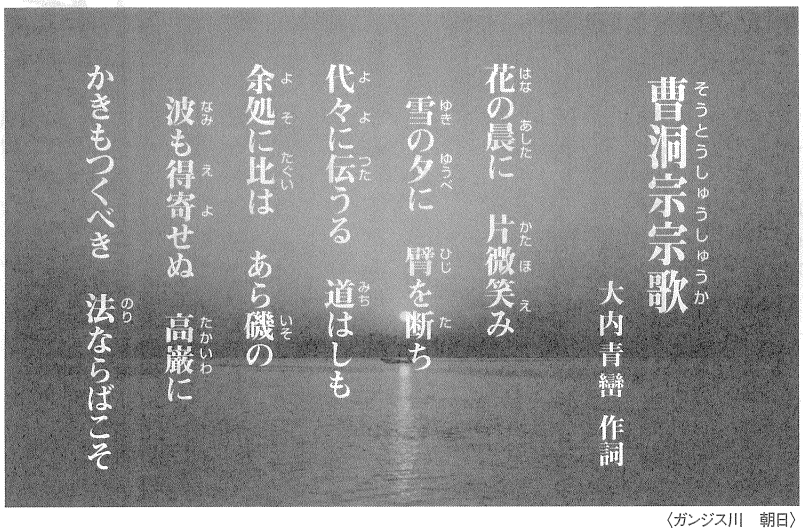
八、禅の国際的高揚に応え、海外における布教教化の充実発展を図る。

九、教義の実践である菩薩行としてのボランティア活動を推進する。

曹洞宗宗歌

大内青巒 作詞

花の晨に　片微笑み
雪の夕に　臂を断ち
代々に伝うる　道はしも
余処に比は　あら磯の
波も得寄せぬ　高巌に
かきもつくべき　法ならばこそ



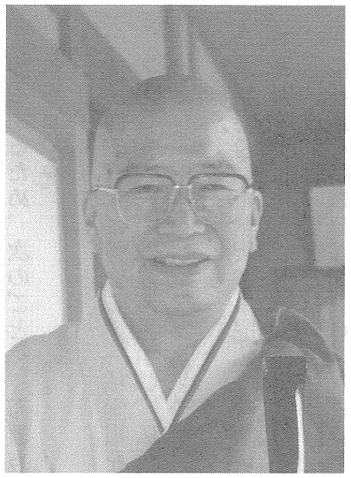
〈ガンジス川　朝日〉

目次

・管区長退任あいさつ……2
・管区長就任あいさつ……3
・統監あいさつ……4
・御遺偈・疏……5
・誌上法話……7
・サマーセミナー……6・8・9
・禅をきく会……10・11
・布教協議会・講習会……12
・青少年教化指導者研修会……13
・婦人会……14

中国管区長 退任のご挨拶

島根県第二宗務所長　佐瀬道淳



中海の白鳥の北帰行のニュースが聞かれる頃となりました。

管内ご寺院各尊董老師には、恙無く二十一世紀の新春をお迎えの段慶賀至極に存じ上げます。

さて、二年間の管区長の責務を兎にも角にも無事に終えさせていただきましたこと、偏に統監老師、各宗務所長老師を始め、多くの関係各位の絶大なるご随喜の賜物と衷心より厚く御礼申し上げます。然し、顧みますに、決まった行事のみを曲がりなりにも一応こなしたというだけで、他の事は半歩だに踏み出し得なかったことに対し、悔恨の情を禁じ得ません。

宗務所役職員の参加すべき行事も増えて、大変に忙しくなりましたし、特に平成九年より、従来からの管区集会に併せて檀信徒集会が持たれるようになり、グリーンプランや、高祖様のご生誕八百年の慶讃法要・七百五十回大遠忌等と相まって、主力が後発の檀信徒集会の方に移り、年々大行事となって参りました。

一昨年は、環境問題をメインテーマに、米子市に於いて両大会を盛大裡に開催させていただきましたが、当番県として初中後を通じて格段のご献身を賜りました倉瀧宗務所長老師、並びに鳥取県宗務所の皆様やお世話いただきました方々に、改めて深甚なる謝意を表したく存じます。

昨年は松江市での開催となりましたが、高祖様ご生誕八百年というご勝縁に遇い得て、その慶讃の集いということで、これまた盛大且つ厳粛裡に円成させていただくことができました。申すまでも無くこれも各宗務所・教化センターの役職員の皆様や管内の関係各位のご協力ご支援に負うものと幾重にも衷心より感謝申し上げます。

今中国管区を眺めますと、内局部長・宗議会副議長・審事院長・審事曹洞宗婦人会長次いでは全曹青会長と錚々たる人材を輩出しており、管区の誇りであり隆昌とご同慶に堪えません。

冀くは、ファイト満々たる川瀬新管区長老師の下、今年の予修法要、明年の団参がそれぞれに無魔円成いたしますことをご祈念申し上げ、私の退任のご挨拶とさせて頂きます。

中国管区長 就任にあたって

島根県第一宗務所長　川瀬信夫

日毎に暖かさをまして来ます昨今、中国管区の老大宗師方には益々ご清祥の御事と拝察し、お慶びを申し上げます。

さて、私事前管区長佐瀬道淳老師の後を受けてこの度、二年間、管区長の大役に就任する事になり、その責務の重大さを思う時、心身の引き締まる思いで一杯でございます。

もとより浅学非才の私如き者には身に余る大役と存じますが、幸いに各宗務所長様のご指導をいただくと共に管区、島根県第一宗務所諸老師方のご協力いただいて職務遂行のために邁進する所存でございます。今後ともいろいろとご教示、ご指導、ご協力を賜りたく重ねてお願い申しあげます。

特に、この二年間は、七百五十回大遠忌予修、正当法要と難値難遇の勝縁の年です。

各宗務所におかれましても大遠忌予修法要が奉修されますが、中国管区予修法要は、宗務庁主催・島根県第一宗務所主管で、平成十三年十月十七日に益田市の石西県民文化会館で大本山総持寺板橋興宗禅師猊下御親化で厳修されます。

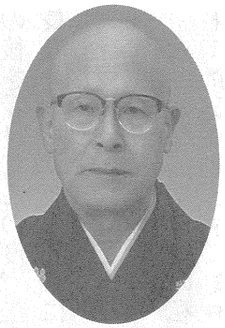
この報恩行を迎えるに当たり管区宗務所の諸老師方と力を合わせ不惜身命、精一杯努力し、無事円成に向かって力を尽くす所存です。

この勝縁を機に、我が宗門が教化集団として二十一世紀に対処していける信仰理念と実践活動をもつ必要があると思います。

その意味で、道元禅師の生涯をみつめる中で、道元禅師の現代的意味を真摯に考えていくことこそ、高祖道元禅師七百五十回大遠忌の意義があると思います。この大遠忌法要が大円成を願うものであります。

統監挨拶　謹而提言

光善寺住職　松原　徹心



二十一世紀こそは、心の時代・宗教の時代といわれて久しい。

人類は、「神」の世界を知り、猿人類と分かれて、「神」とかかわる独特の文化を築いて来ました。

その人類が、豊かさ便利さを追い求め、人間至上主義を構築し、ついに「神」を殺したのです。

「神は死んだ」と宣言を遺した、あのニーチェから百年の二十世紀はまさに「戦争の世紀」であり、今もくすぶり後を引いております。

＊　＊　＊

我が国に於いても、明治元年を基点とする「神仏分離」「廃仏毀釈」の令は、これも政府という名の人間が「神」を殺したことに他はありません。

それからは、富国強兵のもとに軍事が全てに優先し、次で戦後は経済が追い付け追い越せを合言葉に走りまくりました。その結果、神仏と共生の中に養われてきた日本人の心から、やすらぎの和は去り、競争のすさみが残る貪欲の個我が目立ってきました。

共生きが育む、おかげ・感謝の悦もあわれみ・いたみの同悲も消えた日本人はどこへ行くのでしょうか。

＊　＊　＊

哲学者の木田元さんが、哲学の課題について。「これ以上豊かにも便利にもならなくていい。その思い切りを思想化することだ。この調子でいったら人類は自滅する」と、三月二十日天声人語に紹介されていました。

咄嗟に、お前自身の課題は何かと切り込まれたような衝撃を覚えました。

さてと、考えてみたものの名案はありませんが、只思いまして、仏法者は仏法の実践者でなくてはならない。仏法を実践することは、仏道を現成することではあるまいか。

即ち、宗門人にあっては、一仏両祖の仏法を体顕することが、問われる課題であり、また答えとする問いではなかろうかと思い到った次第です。

＊　＊　＊

「個」の時代が到来し、宗教も選択される様になるといわれますが、元来宗教は「個」との問題であります。

つまるところ、宗教者として、仏法者としての「個」は、何を念い何を求めて歩いているのかが、選択されると考えてますが、如何がでしょう。

前号にても申しましたが、無常が観えない布教は、仏法不在であります。無常を観ずるとは、感性が働いていることなのであります。

今日は、感性枯渇の時代ともいいます。豊かさ便利さがあふれていると、「いのち」の働きが見えなくなるのです。

すべて存在は「いのち」です。

その「いのち」が、かかわり合い縁起しつづけて「いのち」している……。言葉が足りませんが、所謂、仏教の根本的真理観であります「諸行無常」「諸法無我」をしっかり把握することに仏法者の「いのち」が生かされると私は信じております。

＊　＊　＊

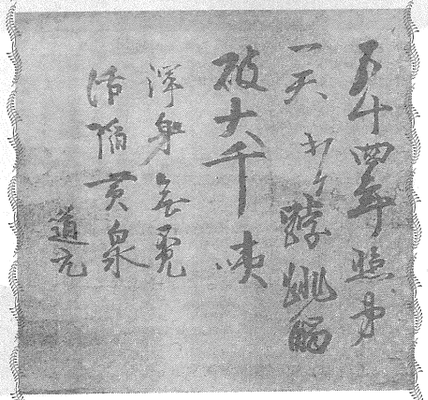
二十一世紀こそは、心の時代・宗教の時代と待たれ念われているのは、実は「仏祖」の、取り分けご生誕八百一歳と明年七百五十回大遠忌にお迎えする高祖さまのお呼びかけではないでしょうか。

仏法者の「個」が共有する念いを、結集して諸仏の大願を、創造し、伝道しようではありませんか。ご道情をたまわらんことを切に願い上げます。

拝上

奉戴　高祖大遠忌

御遺偈



（伝 高祖大師 御真筆
北丹・安養寺蔵）

五十四年照第一天
打箇跿跳触破大千
渾身無覓活陷黄泉

この五十四年
渾身　仏法を照らし
照らされて来た
おかげで　今迷い無
く転身する
即ち
活かされるまま
仏のいのちに還る

高祖承陽大師七百五十回大遠忌　疏（和訓）

浄法界の身、本と出没無し、大悲の願力、去來に元現す。

仰ぎ冀くは眞慈、俯して照鑑を垂れたまえ。

日本國　福井縣吉祥山永平寺住持法孫比丘奕保。
横濱市諸嶽山總持寺住持法孫比丘興宗。

本月本日、伏して、

高祖佛性傳東國師承陽大師七百五十回大遠忌の辰に相値う。

虔んで香華燈燭山蔬茗の微供を具え、特に現前の比兵衆を集め、恭しく寶殿に就いて、經呪を諷誦す、集むる所の殊勳は、上み無極の鴻恩に酬いん者なり。

右伏して惟るに、

三年にして一閏に逢い、五十年にして大遠忌に値う。

雲行り雨施むと雖も、法孫の悲澤彌増して芳しし。

生を洛陽の久我家に受け、躬を木幡の木曾坊に立てぬ。

比叡山に攀りて宿學を捨て、專ら大乘の寶藏を修習す。

明全の會に投りて自り臍を固め、海を渡りて天童の奥堂に參じぬ。

淨翁に相見すれば汝を俟つこと久しと、函蓋合し大事了畢せり。

歸來の一句如何と看るに、只這れ這れ空手還鄕せるのみと。

日本越前の洞上吉祥山永平寺を開闢し、

三國傳燈歷代祖師相傳の大綱を開演せり。

慧日輝を增す祖山の顯に、餘光的皪として扶桑に遍し。

朝には煙霞靡びき、夕べには不斷の香あり。

春には老鶴姿、秋には紅葉の粧。

一法究盡の洪範は、千秋萬劫の手標たり。

百篇提撕の遺訓は、萬邦無邊の佛光たり。

唯心の佛法は常住と説き、正傳の佛法は無常と説く。

即今　永生の法を求むる在り、常住も無常も共に障無けん。

朝々　日は東に出で、夜々　月は西に沈む。

高處は高平地、低處は低平場なればなり。

伏して冀くは、

一株の傘松　翠　彌濃く、五洲を覆蔭し　六凡を度したまえ。

八絃九有　七佛の德、豈啻我が吉峰の頂を摩づるのみならんやと。

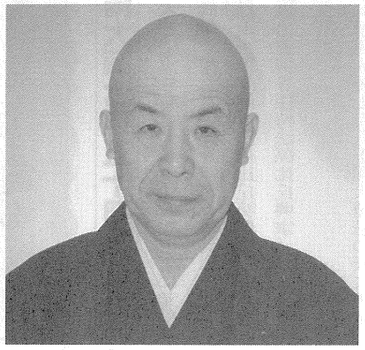
維時平成何年何月何日　永平法孫比丘奕保
總持法孫比丘興宗　謹んで疏

（曹洞宗宗報　平成十一年五月号より引用）

誌上法話

無事（萬縁儘＝ばんえんのまゝ＝）

●安養寺住職
渡辺　勝人



全く仏者の生活をすることを主張されたのが、道元禅師であります。

仏者とは、具体的にお釈迦さまのお示しに従うことである。そのお釈迦さまのお示しの中に、自灯明・法灯明とある。

自とは個々人々の自である。自分が主役である、その自分に仏法をまぶしてゆくことである。しかし、まぶしてゆく自分の時は迷であろう。仏法の中に、自分を浸らさせることが悟であると言えば言えなくも無い。

漱石は則天去私を生涯のモットーにされた文学者であるし、おのが偽善的無意識さを独善として開悟されたわけである。まさに「心」「門」は救いの書である。それも難解な語句の羅列でなく、一凡人的表現をもって琴線にふれること多しであります。あの文章の模範ともなるべき谷崎は、文体は決して上手とは思えないがと、評している。本当に大切なことを表現すのは何も名文でなければならない事はありませんが、この身この心を打つものであります。

あの涅槃の雲にはいられた仏さまの最後のおさとしは、諸行無常であります。各々方精進努力されましょうぞ。

変転きわまりない今生、この我身のつとめは、精進することであります。仏のチエに目覚めて努力することであります。

六十をすぎて有り難く思うことは、それこそ若年においては、朝寝坊したい、あと五分、十分と、そのときは、あゝズーと寝ておりたいと一方的感覚しかありませんでした。今何を思う。不承不承、起き上がる、あゝ起き上がれることの幸せ、五年でも十年でも臥しておりたいけど、臥しておるようでは貪りに浸り過ぎ、近頃は布教のご縁を戴き交通の便利さから言って、飛行機の利用が多いのであります。その際あの狭い席、一番気が軽く保てるのは私である。足が短いのである。何とまあ、この二十一世紀に翔けるように、先を見越して親は生んでくれたのであります。

何をはばかることがありましょう。キムタク的足長さんの渋い顔、でも長短のあってこの世の回転は旨く行くのであろう。

自分を恥じることなく、他人を詰ることなく生活して行くことが大事であります。

本当の自分に生きることが、仏の生活でもあります。間違いも生じます。しかし、その時はご免なさいと素直に頭が下げられることが大切と思います。

今はどうしても日常茶飯、車をのけては生活は不可能に近い。近いが故にこのマナーが甚だダウンしている。それは瞋を助長する温床と言ってもよい。昔のリヤカーを引いた頃を思い出し、母の背中の温もりに似た、ゆっくりさ、けれど仲間や相手に安心を伝えたと思う。無事の有り難さ、このナンデモナイコトが、無味無臭の水的存在が、最も切実であります。

仏さまの打坐を、高祖さまは、慕古されて私達に無事に帰家穏坐とタッチされたのです。

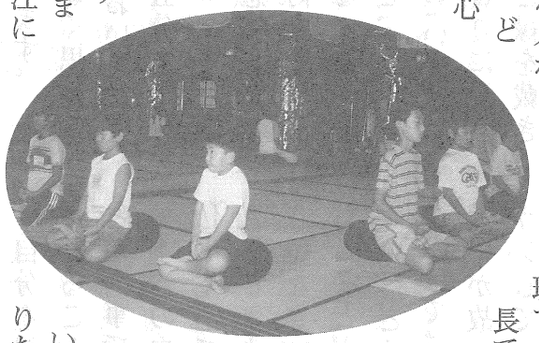
親子ゼンインサマーセミナー

夢

矢成　千穂(小4)

私は松江に行く前はとても不安でした。「松江」という地名は、はじめて聞きました。どんな人がお寺にくるのかなとか、どんな所かなと、すごく心配していました。でも、電車に乗っている時、まどから見える海がとてもきれいでした。だからだんだん、心配がとけていきました。そして気持ちがうきうきしてきました。

でも、島根県だからすごく遠い所だなと思いました。だから私は、松江に行くとき、新幹線があればいいなと思いました。「だって電車より新幹線の方が速いもん！」でやっと、松江につきました。電車で四時間ぐらいかかりました。ついたのは、一時くらいにお寺につきました。お寺では、みんな遊んでいました。私は2班で、岩田さんと言う人が班長でした。



いろいろなゲームをして、すごくおもしろかった。三日間だったけど私が一番心に残ったのは、松江ではじめて出会った人達と、いっしょに遊んだことが一番心に、残りました。

私は、松江から帰って思ったことは、しょうらいお寺のおよめさんになりたいなと思いました。

初体験

原田　応人(小6)

7月27日(木)カヌーの日です。ぼくは、も～ワクワクドキドキでした。はんにわかれて、ぼくはヨット～ボート～カヌーと言うふうに乗りました。

まずヨットに乗りました。ぼくは、沖本君といっしょに乗りました。ぼくはかじ、沖本君はひも？でした。最初はうまくいかなかったけど、あとからすごくスピードが出せました。

次にボートに乗りました。ぼくはかじだったので、あまりおもしろくなかったです。

次にいよいよカヌーです。最初はすぐまがったりしたけど、コツをつかんだら友達のヨットにワザとぶつけました。

ヨット、ボート、カヌー、といっきょ三つもいっきに初体験とてもとてもすご～～くたのしかったです。今年で二回目ですが、ぜひまたもう一度と言うかまた参加したいです。

昔ばなしにふれて

江澤　直子

今年、はじめて次男と一緒にサマーセミナーに参加しました。セミナーのプログラムに、ひろ先生の講演があり、舌切りスズメ、クモの糸、ウサギとカメのお話をまじえて、仏様と人の心についてお話し下さいました。その中で、クモの糸を小学四年位のときに絵本で読んだことを思い出しました。その時、地獄の恐ろしい絵をみて、すごいと思い、ぜったいに悪い事をしない、地獄に落ちるのはイヤだと思ったものです。そんな地獄から抜け出すチャンスを得たカンダタ、どんなに喜んでクモの糸を登っていたことでしょう。そのクモの糸が切れて地獄に落ちていくときのカンダタの気持ちを思って、カンダタの事をとてもかわいそうに思い、本当にお釈迦様は、カンダタが天国に登り、暮らせると思われたのかと思いめぐらし、眠れなかった事を思い出しました。

家に帰って早速本屋に行き、本を探しましたが、クモの糸の絵本はなく、図書館にマンガで書かれた本があり、子供達に読んでもらいたく借りてきました。地獄という存在も意識してもらいたいと思ったからです。私が子供の頃は、地獄はとても恐ろしい所でした。しかし、いまはテレビで直視できないシーンがいっぱい。クモの糸に登り、自分さえ助かればいいと思ったカンダタ。現代は一流企業、一流大学への道は、クモの糸と同じかもしれない、私の周りにもクモの糸があり、私も一生懸命登っているかもしれないと思いました。みなさんはいかがでしょう。

今年は山口県長門市の湯本でお会いしましょう!!

親子ゼンインサマーセミナー
―親と子供の対話　子等にならう―
●日程　7月25日～27日
●会場　大谷山荘／大寧禅寺

禅をきく会 島根第2

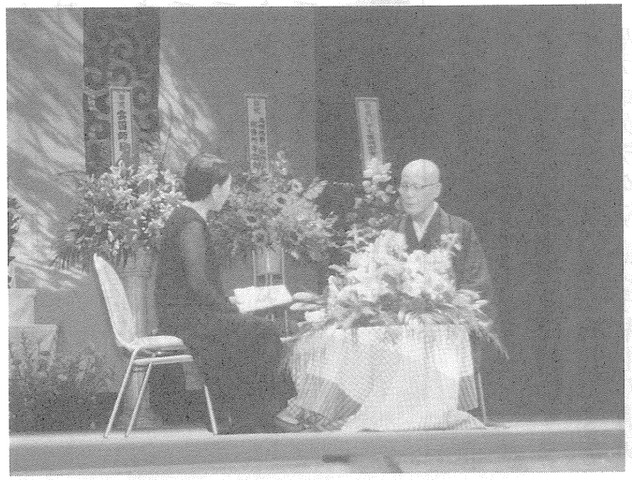
島根県第二宗務所　教化主事　岩田　泰成

平成十二年度管区主催の「禅をきく会」が、平成十二年十月三日、島根県民会館大ホールを会場にして開催された。

本来なら島根県第二宗務所が開催県として「禅をきく会」を単独で開催すべきであったが、昨年は、管区事務局としての管区集会、管区檀信徒集会も控えており、数百人規模の大会を二度行うことは難しく、管区檀信徒集会に併せ開催することになった。

当日は、第二宗務所管内より千三百余名、他県宗務所より百五十余名の約千五百名が参加、会場はほぼ満席となった。

日程は、十時三十分の開会行事に続き、高祖道元禅師ご生誕八百年慶讃法要。椅子坐禅。午後は一時より曹洞宗総合研究センター所長　奈良康明先生の「みんなで生きていこう」と題した講演。教化センター統監松原徹心老師と元アナウンサー浜田妙子氏による「道元禅師のみ跡慕いて」のトーク&トーク。人間国宝茂山千作氏一門による狂言「椎茸典座」。閉会行事であった。



数多くの行事が続く中での坐禅は、わずか三十分と短い時間であったが、統監老師を中央に六人の坐禅人が如法に坐る中、統監老師の禅話から始まった。

統監老師は、今、私たち一人一人がどう生きるか、何が問われているか自己に問い、道元禅師様ご生誕を迎えた意義ある年を機に、あらためてその教えにならい日々信仰に生きることの大切さを説かれた後、坐禅指導に移られ椅子坐禅の開始となった。

今回は、照明も専門家の手を借り工夫を凝らしたため、目からも坐禅の世界に入って頂けたのではないかと思っている。

幻想的な光と静寂な中、わずかな時間ではあったが、参加者一同しばし姿勢を正し、自己をふりかえるひとときを過ごし大開静で坐禅を終了した。

禅をきく会 山口

青少年教化員　清成　良知

平成十二年十一月三十日、防府市公会堂に於いて山口県曹洞宗檀信徒大会、禅をきく会が執り行われた。

この年は、道元禅師ご生誕八百年ということもあり、盛大な行事となり県内各地より約一千三百人もの参加があった。まず、十時殿鐘が開始され、「ご生誕八百年慶讃法会」が南正道宗務所長導師のもとで修された。各教区長様、また地元多々良幼稚園の園児他十数名の稚児も参列し、厳粛な法要のなかにも、華を添えてくれた。次に、松原徹心教化センター統監老師による「椅子坐禅と法話」が行われ、老師の指導のもと会場の参加者は背もたれに寄りかからずに、椅子に浅く腰かけ、背すじをのばし呼吸を整えながら、椅子坐禅を体験した。初めて坐禅の雰囲気に触れた方もおられ、しばし自分を見つめることが出来たのではないだろうか。

昼食をはさんで、午後からは劇団ざ・ダンマによる「お宝森の鬼丸」が上演された。これは、人形劇と人間芝居が複合された内容で、「この地球は、ずっと先に生まれてくる人達から貸してもらっているのだからきれいに使おう」と、環境をテーマにしたものだった。わずか数人による熱演は、子供にも大人にも感動を与えてくれた。最後に三ヶ月前にNHKアナウンサーを卒業したばかりの広瀬久美子先生による「まごころに生きる」の講演をいただいた。ユーモアをまじえた実体験からの提言に会場は共感の渦につつまれた。山口滞在四時間。秒読みのスケジュールをこなして貰った。

終わりに、広瀬先生の朗読で締めくくった。『正法眼蔵、諸法実相』の一節である。「如今春間、不寒不熱、好坐禅時節也。兄弟如何不坐禅。」道元禅師の願いを、心にきざんで閉会した。

山口県教化主事　吉川　俊雄

青少年教化員を中心に、婦人会、青年会が一丸となり、準備から運営にあたった。僧俗一千三百余人の御徳の結集に、高祖様の慈恩と法悦を頂いた。

センター布教協議会・講習会

布教師協議会・講習会に参加して

島根県第一宗務所
宗務所布教師　木村　芳典

平成十二年九月十二・十三日に大田市三瓶町の「さんべ荘」にて開催されたセンター布教師協議会・講習会に参加させて頂きました。

布教師として宗門の第一人者である島崎光雄老師を講師にお迎えしての講習会でしたが、聞く者の心をいつの間にかとらえてしまわれるそのお話しぶりはさすがの一言に尽きるものがありました。

冒頭、老師は「宗門の布教は本来"身業説法（只だ坐れ）"で良いと言われるが果たしてそうだろうか。」と述べられ、やはりそれと共に言葉による布教の重要性もご指摘になられました。

その上で、「難しい言葉はなるべく使わない」「導入と結びが大切。その為に話の題名を考えよ」「間の取り方が大切」「理路整然として流れるような話し方よりも、むしろ不安定さのある話し方の方がよい」「何事も書き留めておく事」「涙をさそうような話はサラリと話せ」「聞く者に"何かな？"と思わせる事が大事」「上品な笑いをどこかに入れる」「分かる話・共感できる話を明るく話す」等々、説教・法話（島崎老師によると法服を着け、仏様を背にして話す上には説教と法話の区別はないとのことでございますが）を実践していく上での具体的な指摘を頂戴することができ、私自身大変参考になるところがありましたが、同時に布教というものの難しさ、奥深さ、また布教に携わる者の責任の重さを改めて感じさせられ、身の引き締まる思いが致しました。

色々な意味で教えられる事の多かった有意義な講習会であったと思っております。

センター職員、担当県宗務所職員の皆様には大変なご苦労があろうかと思いますが、次回講習会にも期待を持って参加させて頂きたいと思います。

青少年教化指導者研修会に参加して

島根県栄泉寺住職
佐々木　勝堂

私は、教化委員になり二期目になりますが、いつも思っていることがあります。『教化委員の活動は何をすればいいのか、意義、必要性があるのか。』

宗務庁での連絡協議会にでもこの問題が必ずといっていいほど上がってきます。各県の代表の方々からは、「教化委員としての活動はありません。しいて言えば、曹青での活動に加えて参加しています。」とのこと。ですから、教化委員として集まってこれから何かして下さいと言われても何も出来ない、何を言っていいのかわからない状況におかれています。今後は、宗務庁、各センター、各県宗務所等、考えていかなければいけないと思っています。

さて、本年は、島根県大田市「さんべ荘」で開催されました。

講師は、自分から見た青年像、話し方・人権講座の二講座を落語家の露の新治師匠が、楽しい話で会場を爆笑に包み、いつもは長いと思った講義もあっという間に終わり、もう少し聞きたいと思ったほどです。

又、SVAの三部義道老師は「菩薩行としてのボランティア」と題し、自分の体験を通して話された、ボランティアとは用事行である、困っている人を助けるのではなく、共に頑張ることなんだと。

ゲーム指導はいつもと違い、参加者全員が、自分の知っているゲームを披露することになっていました。

最初は皆緊張しているようにみえましたが、時間と共にそれは完全に消えて、あてられた指導員は楽しそうに教えていました。

初めて知るゲーム、何度も見たゲームも少しアレンジすると少人数から多人数まで使えるものだと大変役立ちました。

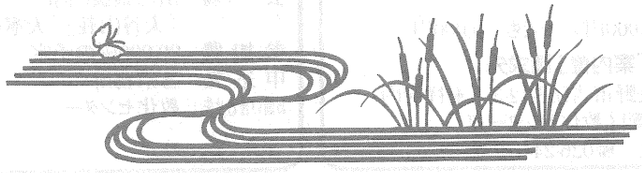
一人の講師でなく、このような方法も楽しいもので、参加者も活動できてよかったと思います。

センター布教師

岡山	6教区 179番	長安寺	久保孝道	津山市西寺町52	☎(0868)22-6878
広島	8教区 151番	多聞寺	雲井亨拳	庄原市市町723	☎(08247)4-0809
広島	3教区 58番	宗光寺	垣井龍顕	三原市本町1972	☎(0848)62-4719
山口	2教区 37番	安養寺	渡辺勝人	防府市新田古前1246	☎(0835)22-1865
山口	3教区 72番	真福寺	大野恭史	新南陽市福川中市町6-27	☎(0834)62-2760
鳥取	7教区 151番	安国寺	森下慈孝	米子市寺町50	☎(0859)22-3836
島根Ⅰ	1教区 236番	宝隆寺	和田善明	邇摩郡仁摩町宅野町1355	☎(08548)8-2790
島根Ⅱ	9教区 187番	養善寺	西古孝道	大原郡木次町湯村900	☎(0854)48-0371

センター役職員

統監	松原徹心	光善寺	〒755-0035 山口県宇部市西琴芝2-1-46	☎(0836)21-5465
主監	村上邦雄	摩訶衍寺	〒722-0202 広島県尾道市原田町梶山田4338	☎(0848)38-0656
賛事	宇田治徳	雙照院内	〒723-0045 広島県三原市田野浦町1218	☎(0848)62-4550
賛事	藏重宏昭	玄済寺内	〒753-0811 山口県山口市吉敷1584	☎(083)922-4560



曹洞宗婦人会 中国管区研修会に参加して

真福寺婦人会
椎木 美津子

秋晴れの好天にめぐまれ、山口市湯田の地において、中国管区研修会が開催され、三百余名の参加者を得て、盛大に行われました。

役員一同、皆様を快くお迎えするように心掛け、少々手間取りながらも受付を果たし、接待の方たちもこころを配られ、温かい気持ちがあふれていました。

厳粛な雰囲気の中に開会式が始まり、すばらしい持味の進行で、式がスムーズに流れて、心が引き締まる思いでした。

引き続いて、講演に入りました。児童文学者　矢崎節夫先生の「21世紀のまなざし」―金子みすゞこころの宇宙―の題で、山口県生まれ、若き童謡詩人「金子みすゞ」の詩を紹介され、作品はどれも心に沁みる優しさとこころの奥底に響く強さを兼ね備えている、などの話を拝聴し、感動いたしました。

休憩、記念写真と続きました。次に、蔵重恵昭老師の解説のもと人権映画「心のかけはし」が上映され、心を打たれました。

翌日、松原徹心老師の講義「人生は旅」"旅人どうし"との題で話され、人生の旅には杖が必要、人生は一人では生きていけない、何らかの助けが必要であるといったお話をされました。

また、江州のお茶のお話など楽しくお聞きしました。

最後に、二人の方から体験発表があり、それぞれの立場からお寺を中心とした活動を発表され、山口県の観光案内も十分にPRされ、明るい雰囲気の内に研修会が終了致しました。

事務局をはじめ、会長さんの熱心なご指導に支えられ、役員皆さんのご協力も得て、すばらしい研修会を行うことができました。

遠路ご参加くださいました皆様方に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

中国管区教化センター平成13年度行事予定

4月18日～19日	全国教化センター役職員連絡協議会
4月4日	教化センター企画委員会
5月	教化センター布教師協議会
5月	曹洞宗婦人会中国管区役員会
6月19日～20日	青少年教化指導者研修会
7月4日～5日	管区役職員人権学習会
7月25日～27日	第17回親子ゼンインサマーセミナー
9月12日～13日	布教協議会・講習会
9月13日	布教師特設検定
10月11日	禅をきく会　広島
10月16日	中国管区集会
10月17日	高祖道元禅師750回忌大遠忌予修法要
10月23日～24日	曹洞宗婦人会中国管区研修会
11月	教化センター運営・企画委員会
11月	全国教化センター役職員連絡協議会
H14年1月	教化センターだより　18号編集会議
2月5日～6日	中国管区布教委員長会議
2月	島根県布教講習会
3月3日	禅をきく会　島根第1

青少年教化指導者研修会

日　　時　平成13年6月19日(火)正午受付13時開講
　　～6月20日(水)正午まで
会　　場　岡山県総社市　「岡山厚生年金休暇センター」
講　　師　岡村　精二先生(宇部市・岡村塾主幹)
参加費　10,000円
対　　象　青少年教化員・青少年教化を志す宗侶
申込先　各宗務所
お問い合わせ先　教化センター

布教講習会

日　　時　平成13年9月12日(水)正午受付13時開講
　　～9月13日(木)正午まで
会　　場　山口市下小鯖　「禅昌寺」
講　　師　未　定
参加費　10,000円
対　　象　布教師・宗門僧侶
申込先　各宗務所
お問い合わせ先　教化センター
(※講習会後　特設検定会を予定)

親子で学ぼう —永平寺雲水体験—

《開催期日:7月27日(金)～29日(日)》

会　　場　大本山永平寺
　　福井県吉田郡永平寺町志比5-15
募集人数　100名
参加費　大人　12,000円／子ども　9,000円

●参加申し込み「案内書」請求先
〒381-0043　長野市吉田3-12-3　永祥寺内
曹洞宗北信越管区教化センター宛
☎026-244-7901　FAX 026-244-7877

親子ゼンインサマーセミナー

—大人と子供の対話　子等にならう—

《開催期日:7月25日(水)～27日(金)》

会　　場　山口県長門市
　　「大谷山荘」「大寧禅寺」
参加費　20,000円の予定
申込先　各宗務所
お問い合わせ先　教化センター